

ひまわり



歯科検診結果号

先週の月・火曜日に実施された歯科検診について報告します。
今回、検診を終えての学校歯科医の感想です。



「きれいな歯の人もたくさんいましたが、
全体的にむし歯の疑いがある人が増えているように感じました。
毎日の歯磨きを丁寧にすることや、かかりつけ医への定期受診を続けていくとよいでしょう。」

「学校の歯科検診ではライト明るさに限界があるため、正確に診断することは難しいです。そこで、歯科検診の判定は、少し怪しいなと思った歯は、むし歯(C)やむし歯疑い(C0)として診断しています。C0で『経過観察』というお知らせをもらった人も、是非早めに一度かかりつけの歯医者さんを受診し、クリーニングしてもらうなどしてほしいです。」

学校歯科医 濱坂 純一 先生より



歯科検診の結果「要観察歯」と判定された人は、結果のお知らせ（ピンク色の用紙）では「経過観察」となっていますが、小松市では、むし歯の予防や早期発見、及び治療のために「要観察歯の方にも受診をお勧めしていますので、歯科医での受診をお願いいたします。なお、受診後は歯科医の記入を受け学校へ提出してください。」

※歯列・咬合（はならびやかみあわせ）の詳しい説明は裏面に記載しておきますので参考にして下さい。

なお、今回、家の都合や、体調不良で歯科検診を受けられなかった人は、後日、お家の人と一緒に濱坂歯科医院にいて、受検していただきます。

受検の日は、学校でスケジュール調整をしますので、しばらくお待ち下さい。個別に予定をお伺いするお知らせを出します。

中学3年生までむし歯が一本もなく、歯並びがきれいな人には「よい歯の生徒」という審査会にでるチャンスがあります。

歯科検診の時に学校代表候補の審査をしたので、その結果は後日お知らせしますね。楽しみに待っていて下さい。



歯科健康診断結果 歯列・咬合しれつ・こうごうについてのお知らせ

歯列・咬合とは、歯並びやかみ合わせのことです。「食べ物を取り込み、食べる」機能、「表情をつくり、話す」機能及び「運動を支え、体のバランスをとる」機能等に直接かかわっており、食生活のみでなく生活の質全体に関係しております。歯列・咬合の不正は、子供の成長発育段階により、噛む・話す・呼吸する・体のバランスをとるなどの発達に影響が見られる場合があります、学校での学習にも影響がでる場合があります。

学校歯科健康診断の結果に記載される歯列・咬合の不正は、主に「反対咬合」「上顎前突」「歯数異常」「開咬」などがあります。

○上下の前歯のかみ合わせが前後逆になる「反対咬合」、上の前歯が前方に出ている「上顎前突」は成長発育不全（上顎発育不全・下顎発育不全）を起こしやすくなります。また発育の状況により、歯周病やむし歯のみでなく、嚥下（飲み込み）の時に舌を突き出す癖や口呼吸に関連することもあります。

○本来生えてくるべき歯数と異なる「歯数異常」は、先天性欠損や埋伏歯、過剰歯がある場合が多く、手術による治療が必要な場合、その後に矯正処置が必要な場合があります。

○かみ合わせたときに、前歯の上下に隙間ができる「開咬」の場合は発音（構音）に問題が起き、サ行やタ行が発音しにくい等の障害がおこる場合があります。原因が指しゃぶりなどの癖の場合、癖の中止や早い時点でくちびるの訓練を行うことにより、改善がみられる場合があります。重度の場合は、将来的に矯正治療の検討も必要です。

※詳しくは専門医もしくはかかりつけ医にご相談ください。

公益社団法人日本学校歯科医会作成参考資料より抜粋